

劇場予告編の映画音楽/クリスマス・ソング

I. 1935～1965 「劇場予告編の映画音楽」 (2007年(米)アメリカーナ・ソングスで制

作・著作)

- (1) ブルースの誕生(1941年)
ニューオルリンズで生まれたブルースバンドが女性シンガーを加え大成功し、大都市シカゴに進出して行く過程を描いた音楽映画。主演ビング・クロスビー主演。
- (2) ビギン・ザ・ビギン(1935年)
「ブロードウェイ・メロディ」シリーズの作品。コールポーター作曲のタップダンス。
- (3) 監獄ロック(1957年)
MGM 初作品。エルヴィスにとっては3作品目。殺人罪で刑務所に入ったエルヴィスが、囚人仲間から、歌・ギターの手ほどきを受け出所後、社会で成功する映画。
- (4) ベン・ハー「愛のテーマ」(1959年)
ローマ帝国下、ユダヤ人地区エレサレムの豪族の長男「ベン・ハー」の波乱に富んだ人生を描いた映画。音楽はエル・シド、キング・オブ・キングなど手掛けたミクロス・ローザ。
- (5) アラビアのロレンス(1962年)
第1次世界大戦中、(独)と手を組み、中近東支配をもくろむトルコ軍から、アラブを守り英雄と謳われたT・E・ロレンスの波乱にとんだ半生を描いたもの。主役ピーター・オトゥール。
- (6) サウンド・オブ・ミュージック(1965年)
ルート・ロイヴェリックが MARIA に扮し、ドイツ映画「菩提樹」で有名になったトラップ一家のミュージカル版。日本ではサン・トラ版レコードを購入・入荷待ちの人が店頭で並んだという逸話を残している。
- (7) はるかなるアラモ(1960年)
西部開拓史上名高い、アラモ砦の攻防を描いたもの。ジョン・ウエイ監督・主演で、音楽はディミトリ・ティオムキンが担当。
- (8) 80日間世界一周(1956年)
巨大風船・船・蒸気機関車などでの世界一周の先々には、ゲストスターが43人という超豪華版。ヴィクター・ヤングの美しい旋律が見る人をゆったりとした気分にしてくれる。

II. アンドレア・ボッチェリの「クリスマス・ソング」

2009年9月にハリウッド・コダックシアターで米PBSのクリスマス・スペシャル番組

の公開番組で収録されたもののうち、楽しいものと思われる3件を紹介する。

プロデューサーはカナダの大物プロデューサー「デイヴット・フォスター」(ピアノ担当)

(1) ザ・クリスマスソング

ナット・キング・コールゆかりのクリスマス・ソングと言う事でボッチェリとデュエットをしているゲスト歌手は、ナット・キング・コールの娘である大物歌手ナタリー・コール。

(2) サンタが街にやってくる

地元の子供たちに囲まれ、肩の力が抜けた歌唱力を披露しているボッチェリ。

(3) ジングル・ベル

ソリに乗ったボッチェリと「セサミ・ストリート」でおなじみのマペットたちとの掛け

合

いが面白い。